

クラス	TU310	担当教員	松下 明生
テーマ	「みる・かく・つくる・あそぶ・いきる」		
著書・論文	児童・生徒の学びや活動に関しては、多角的にアプローチされた方法論であふれていることを知り、これらの理論的見地からの探りに留まらない実践的な試みとして「みる・かく・つくる・あそぶ」を積極的に行い研究の成果「いきる」として可視化させる。		
研究課題等			
ゼミナール概要			
キーワード：「見る（鑑賞）・書く（描く）・作る（制作）・遊ぶ（生きる）」「芸術学」「教育学」			
「目的」			
「人間の本能的な活動：芸術学による人間形成及び教育」について、さまざまな手法で実効することを体験し、自ら実現可能な人材として教育者として貢献することができるようになる。 出典「美術による人間形成」V. ローウェンフェルド（黎明書房：1964） 「芸術による教育」ハーバート・リード（フィルムアート社：2001）			
「方法」			
3年前期			
・教科教育（図画工作教育法）や造形系の授業ではできない、 <u>芸術学的体験</u> をする。			
・みんなでする共同活動と個人で研究する2つの方向ですすめる。			
3年後期			
・教育実習に向けて、各教科（生活・理科・算数・社会・道徳・国語・体育など）の各教科教材の制作			
・学外ワークショップを行い、 <u>幼児から児童と親子参加する活動</u> や、 <u>地域の高齢者や支援の必要な施設</u> などにて関わりながら制作体験とする。			
・芸術の広がり：モノづくりについて理解を深める。			
・文献の調査と引用文献の蓄積作業			
4年前期			
・卒業後の生き方について向き合い、準備と実現に向けて自ら行う。			
・新しいワークショップのファシリテーターとしての役割と社会貢献について考える。			
・個人の卒業研究として「制作」か「論述」かを考えてテーマも見出す。			
4年後期			
・卒業研究（作品制作・論文・制作とレポート：の中から選択）			
・地域貢献（共同ワークショップ）			
・卒業制作展			
＊卒業研究は、必ずしも制作とは限らない。芸術論的なアプローチでの論文でも構わないし、教育学的な実践論文でも良い。もちろん制作（絵画・イラスト・紙芝居・絵本・アニメーション・立体工作・オブジェ・インスタレーション・現代美術など）が主軸として作品発表とレポートでも良い。音楽と美術の融合的なモノづくり、工学的な未来の自動車模型の制作や乗り物の提案、建物のジオラマや建築設計、生活に必要なデザインの提案など。自らがやりたいことを見つけて実行することが大切である。これらは、必ずや教師に必要な資質となり、教員採用に留まらず、一般企業においても新しいものを生み出す力となり得る。			
担当教員からのメッセージ			
上手い下手ではなく「描いたり作ったり」することが好きな人、自ら考えて実行できる人が集まればいいですね。			